

【目標：環境教育・環境学習の場や機会の充実、人材育成等の基盤整備を目指す】

●環境学習用冊子「みーつけた！川の生きもの」作成●



公害研究所では、水質、大気、騒音・振動、都市環境に関する研究成果をもとに様々な体験学習を展開しているとともに、そのデータを活用して環境学習用教材を作成しています。

平成20年度は、川崎市内を流れる川や多摩川河口干潟などにおける魚貝類、底生動物、水草などの生息状況などをまとめた冊子「みーつけた！川の生きもの」を作成しました。

内容は水質と生物の関係、生き物を観察するおすすめスポットや川で簡単にできる底生動物による水質調査の方法など、身近な環境である川や水辺のを知り、そこに生息する生き物や環境を大切にす気持ちや育ててもらおうよう写真やイラストを豊富に用い、わかりやすくまとめています。

●身近な食材で環境学習「かわさき緑のカーテン大作戦」●

「かわさき緑のカーテン大作戦」は、友好自治体である那覇市（沖縄）の特産品ゴーヤー（ニガウリ）を活用した環境への配慮と壁面緑化の推進です。これは、ゴーヤーを窓辺やバルコニーで栽培して「緑のカーテン」をつくり、夏の強い日差しを和らげることにより部屋を涼くするとともに、冷房の使用を控えることによりCO₂を排出削減するなどの環境に配慮したライフスタイルを提案するものです。

平成20年度は3カ年計画の初年度として、区役所などの公共施設45箇所に「緑のカーテン」を設置してPRしました。

区役所などではゴーヤーの種子を配布するとともに、様々な機会を捉え、子供たちが実際にゴーヤーを植え、育てた実の収穫を通して、環境や植物に興味をもってもらうばかりでなく、「地産地消」などについても考える「きっかけ」づくりを実施しました。



●生ごみリサイクルリーダー●



市では家庭から出るごみの約3割を占める生ごみを減量するため、平成19年2月に「かわさき生ごみリサイクルプラン」を策定し、生ごみリサイクルに取り組んでいます。特に、家庭でできる生ごみリサイクル（小さな循環）を推進するため、ごみの発生抑制や生ごみの堆肥化によるごみの減量等の普及啓発を行っていますが、「生ごみリサイクルのやり方がわからない」、「生ごみを堆肥化すると臭いが気になる」等、リサイクル活動がうまくいかない場合があります。

そのため、市では生ごみリサイクルについての知識や活動経験が豊富な市民を「生ごみリサイクルリーダー」として認定し、生ごみリサイクルに悩む市民の相談等に応じてもらうとともに、地域に出向いての実技指導や助言を行っています。